

R3地域協働研究（ステージⅠ）

R03-I-12 「道の駅「青の国ふだい」を拠点とした地域活性化に関する調査研究」

課題提案者 普代村

研究代表者 総合政策学部 山本健

研究チーム員 土澤智（普代村）

<要旨>

普代村では三陸沿岸自動車道の全線開通を機に、三陸鉄道リアス線の普代駅に併設する既存施設の村観光センターの一部や駐車場などを改修して、令和3年3月に岩手県では35番目の「道の駅」として認定を受け同年9月より供用を開始した。

道の駅は道路利用者の利便性、休憩機能はもちろん、三陸沿岸道路全体への情報発信を進め誘客を図る「村のゲートウェイ」としての機能をこれまで以上に強化して、観光宿泊施設くろさき荘やくろさき展望台を擁する黒崎地区、沿岸の普代浜園地キラウミといった観光拠点、さらにはみちのく潮風トレイルやジオパーク、津波災害伝承施設、近隣の道の駅などの三陸沿岸全体に広がる観光地への交流拠点となることが期待されている。本研究では、地域活性化に資する道の駅となるための条件について検討を行うものである。

1 研究の概要（背景・目的等）

県内外における道の駅を拠点とした地域活性化事例に関する調査、ならびに令和2年度に共同で実施した村民を対象としたアンケート調査よりもたらされた情報をもとに、既存の商店街、観光宿泊施設くろさき荘、漁港といった村内に点在する地域資源のハブとしての機能を果たすために必要な施策づくりを検討するとともに、道の駅の事業展開の方向性を明らかにし、道の駅における売り上げ目標を設定し、ギャップを埋めるための方策の検討や、人員の確保・設備投資などの基礎的な情報を取りまとめる計画を当初はしていた。しかしながら、令和3年度を通して新型コロナウイルスの感染状況は深刻で、聞き取り調査や関係者との間で情報共有を図るための定期的な会合を計画通りに執行することができず、文献調査の結果のみを取りまとめることとした。

2 研究の内容（方法・経過等）

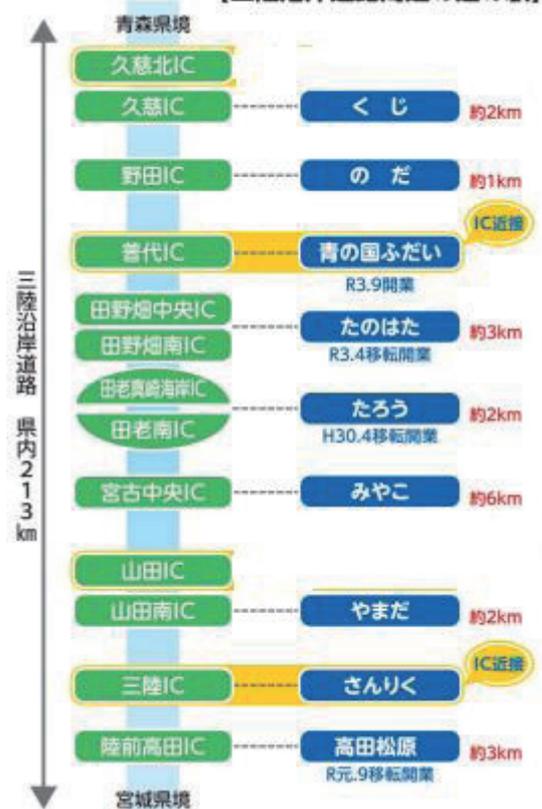
方法は、道の駅「青の国ふだい」整備基本計画、道の駅の機能に関する論文、調査レポート、ならびに道の駅に関する書籍に対する文献調査を中心に進め、詳細な情報収集や事実確認のために必要最小限の訪問調査により実施した。

3 これまで得られた研究の成果

①三陸沿岸道路整備が普代村にもたらす効果

令和3年12月に三陸沿岸道路は八戸から仙台まで全面開通したが途中SAやPAはなく、休憩や給油のためには一般道に出る必要がある。そうした背景もあり三陸沿岸道路および国道45号線沿線には9つの道の駅が立地して、さらに2駅が建設中と全国でも類を見ない激戦地帯となっている。その中で道の駅ふだいは普代ICに近接して設置されていることから、三陸沿岸道利用者にとっては時間的・距離的ロスなく休憩できるという他の道の駅にはない高い利便性を誇る。

【三陸沿岸道路周辺の道の駅】



三陸沿岸道路が全通した結果、普代ICから八戸ICまで1時間、宮古ICまで40分、仙台まで3時間25分と各都市へのアクセス時間は大幅に短縮された。



三陸沿岸道路は無料でかつ冬季に降雪や凍結が少ないため、八戸道・東北道経由で往来していた大型貨物の流れがシフトすると予想されていて、2030年における道の駅に隣接する道路の将来交通量は以下のように推計されている。

路線	普通車	大型貨物	計
三陸道	4,298	2,386	6,684
国道45号	263	32	295
村道	1,507	253	1,760
計	6,068	2,671	8,739

以上の点から、下記のような効果もたらされると考えられる。

- ・国道45号の代替、沿岸各都市や八戸市、仙台市等の主要都市との交流人口の拡大、災害対応、医療の確保、地域活性化
- ・物流の加速と市場の拡大（特に漁業・水産業）

② 普代村が直面する地域課題

普代村の人口は減少傾向にあり高齢化率も上昇の一途をたどっている。平成27年度国勢調査時点で2,868人、令和4年7月時点での推計人口はさらに500人減少して2,362人。農林漁業従事者・生産工程従事者の高齢化が懸念されている。三陸沿岸道路開通に伴い国道45号から交通量がシフトすることから、道の駅をゲートウェイとして商店街への誘導と地場産業への波及を図る必要が急務である。



③ 道の駅「青の国ふだい」の整備目的

三陸沿岸道路の効果地域に取り込む交通拠点として位置づけ、多くの人を普代村に呼び込み、交流人口の拡大、農林水産物や特産物の販売促進、村内での購買促進など、経済活動の活性化につなげることを目的とする。さらに道の駅を「小さな拠点」形成の核として整備し、交通ネットワークを維持しながら地域住民が必要な生活サービス機能を集約・確保する。

- ・交通弱者に必要な生活サービス機能の確保
三陸鉄道、村営バス、タクシーなど集落を結ぶネットワークの拠点。隣接する診療所、商店街、福祉施設、行政機関等の機能を総合的に活用し地域住民が暮らすために必要な生活サービス機能を確保する。
- ・地域内外の人々の交流、にぎわいの創出
村に人を呼び込み農林水産物や特産物の販売を通じた経済活性化を図るとともに、商店街や観光施設に人を周遊させる起点となる。
- ・村の特徴をPRし認知度を上げる
道の駅の知名度を活用しながら来訪者に対して普代村を

起点とした観光情報や普代村の特徴ある文化を的確に発信し、認知度向上を図る。

- ・地域を活性化する
道の駅を活用しながら若者の活躍の場をつくる。
- ・道路と三陸鉄道を結ぶ結節点として地域の周遊観光を促進する
普代駅、国道45号線、県道202号線が交わる道の駅として、北山崎、龍泉洞などの地域の観光情報を的確に発信し、普代村を起点とした周遊観光を促進する。

④ 道の駅のコンセプト

道の駅そのものの目的を踏まえた基本的な3つの機能「休憩機能」「情報発信機能」「地域連携機能」に加え、地域が直面する諸課題の解決と地方創生を実現するために以下の3つの拠点となることを目指し、「産業振興」「観光振興」「地域福祉」「文化振興」「防災・減災」といった目的の実現を図る。

- ・人々が集い交流する「交流拠点」
三陸復興国立公園、三陸ジオパークをはじめとする雄大な自然資源や観光地など、豊富な地域資源を活かして人々の交流を促進する拠点とする。
- ・農林水産業・食文化を育てる「産業振興拠点」
三陸の豊かな漁場もたらす豊富な海の幸や普代村の特産品である「すき昆布」をはじめとする地域の特産品を提供する。また商店街への周遊を誘導するなど地域の産業を振興する拠点とする。
- ・青の国ふだいの魅力を発信する「情報発信拠点」
観光名所やイベント情報のPRや国指定重要無形文化財である鶴島神楽の公演など地域魅力を発信する拠点とする。
道の駅ふだいは近隣の道の駅である野田村の「道の駅のだ」、田野畑村の「道の駅たのはた」と、それぞれ16km、19kmの位置に立地している。

施設名	普通車	大型車
青の国ふだい	25	18
のだ	50	5
たのはた	43	25
遠野風の丘	164	14
高田松原	140	33
さんりく	62	7

一棟貸し可能な古民家やキャンピングカー専用駐車場などを擁する道の駅たのはたと比較すると施設面での見劣りは否めないが、三陸沿岸道路に近接している利便性の高さはアドバンテージとなっている。普通車の駐車スペースは県内で最少だが、大型貨物をターゲットにしている戦略の現れと言えよう。もう一つのICに近接する道の駅さんりくが普通車中心になっている点も差別化ポイントとなる。

4 今後の具体的な展開

引き続き道の駅を拠点とした収益事業に関するヒアリング調査、関係者との情報交換を進め、魅力ある売り場づくりや自立した経営体制構築に向けた提言を行う。